

第2学年〇組 国語科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1 単元 ようすを考えて読もう 「お手紙」

2 指導の考え方

○ 子どもの実態

本学級の子どもたちは、これまでに「ふきのとう」と「スイミー」の二つの物語文を学習している。「ふきのとう」では、役に分かれて音読したり、動作化したり、吹き出しを書いたりしながら、登場人物の気持ちを考えたり、まわりの様子を叙述とつないで想像したりしながら読む学習を行った。「スイミー」では、題名から考えたことと冒頭をつないで読み、スイミーの行動に着目した読みのめあてをつくり、挿し絵や叙述とつなぎながらスイミーの行動やその理由、まわりの様子を考えたり想像したりしながら読む学習を行った。また、ここでは、音読を効果的に取り入れながら学習を進めていった。

これらの学習を通して、子どもたちは、時間や順序を表す言葉に着目して登場人物のしたことを見つけたり、挿し絵と叙述をつないで読むことによって大体のあらすじをとらえたりすることができるようになってきている。学習過程においては、題名から分かることと冒頭、挿し絵をつないで読み、そこから分かることと分からないことをみんなで話し合う中で、読みのめあてを生み出すこと。予見をまとめるところでは、読みのめあてを意識しながら全文を読み、挿し絵を並べ替えたりする中で、不十分ではあるが自分なりに予見をまとめること。読み確かめでは、類縁語と比べて読んだり、言葉の順序の意味を考えたりすることを通して、それぞれの言葉が持つ意味を考え、まわりの様子を想像したり、登場人物の気持ちを考えたりしながら読むことができるようになってきている。また、音読を取り入れた読み確かめの学習を行うことで、自分の読みが音読に反映され、自分の考えが深まっていることを実感し、一つ一つの言葉に着目しながら想像を広げて読む楽しさを味わう子どもたちの姿も見られる。

しかし、自分一人の力で予見をまとめたり、一つ一つの言葉の意味に着目したり、類縁語と比べてすることはまだ難しい。教師の発問や全体での話し合いを通して、お互いの意見を交流する中で、予見をまとめたり、一つ一つの言葉の持つ意味と働きに気づき始めたりしている段階である。

○ 教材の価値・特質

本教材は、誰からもお手紙をもらったことがないと不幸せな気持ちでいるがまくんの姿を見て、一生懸命励まそうとするかえるくんと、そのかえるくんの存在に気づくがまくんと温かい心のふれあい表現されている物語文である。

文章構成の特質としては、大きく5つの場面からなり、それぞれの場面に対応した十枚におよぶ挿し絵があるため、お話の大まかな筋がとらえやすい。そのため、子どもたちは、挿し絵を手がかりとして、かえるくんとがまくんのしたことを順序よくたどることができる教材である。

文章表現の特質としては、本教材は短い会話文をたくみに用いて構成されており、時間の経過を表す言葉や、「見ました。」「のぞきました。」などの類援護の使い分け、たたみかけるような表現もみられる。そのため、音読を効果的に取り入れ、類縁語や言葉の繰り返し、会話文に着目して読むことで、場面の様子を想像したり登場人物の気持ちを考えたりすることができる教材である。

本教材の学習を通して、子どもたちは、一つ一つの言葉に着目しながら想像を広げて読む力をより一層身につけることができるとともに、音読の楽しさをより一層味わうことができると考える。

○ 指導にあたって

指導にあたっては、挿し絵とがまくんやかえるくんの言動とをつなぎ、音読を取り入れながら、場面の様子やがまくんとかえるくんの気持ち、温かい心のふれあいを、想像を広げて読み取ったり考えたりすることができるようにしていきたい。

読みのめあて

まず、題名の「お」に着目し、その意味を考えることで、「お手紙」には何か大切なことが書いてありそうであることや、お手紙が何か重要な働きをする大切なものであることに気づかせる。そ

して、挿し絵と冒頭の「ふたりともかなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしていました。」に着目し、「かなしい気分でこしを下ろしているがまくんとかえるくんは、これからどうなるのだろう。」という、お話の筋を追う読みのめあてを生み出す。

予見

読みのめあてに沿って全文を読み通し、音読や挿し絵の並べ替えを通して、自分の予見を書きまとめていく。その際、2枚目の挿し絵・「ふたりとも、悲しい気分でげんかんの前にこしをおろしていました。」という叙述と、9枚目の挿し絵・「ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」という叙述を比べ、「かなしい気分」から「とてもしあわせな気持ち」に変わっていることを押さえる。そして、なぜ変わったのかを、かえるくんとがまくんの言動とつなぎながら考え、予見を方向づける。

学習計画

一人一人の予見の違いをクラス全体で話し合いながら、「お話のはじめと終わり」と「そうなったわけ」を、かえるくんやがまくんがしたこととつないで整理していく。そして、そこで生まれた疑問をもとに、これから読み確かめていく計画を立てる。

読み深め・確かめ

次の五つのことについて読み確かめていく。

- ① 大急ぎで家に帰ったかえるくんの様子を想像させるとともに、かえるくんのがまくんに対する気持ちを考えさせ、あらすじをつかむ。
- ② 窓から郵便受けを見るかえるくんの様子と窓からのぞくかえるくんの様子を、がまくんの言動とつないで想像させるとともに、かえるくんのがまくんに対する気持ちを考えさせ、あらすじをつかむ。
- ③ お手紙を出したことを言ってしまったかえるくんの気持ちを考えさせると共に、かえるくんがお手紙を出してくれたことを知ったがまくんの様子から、そのときのがまくんの気持ちを考えさせ、あらすじをつかむ。
- ④ とても幸せな気持ちでお手紙を待っている四日間の二人の様子を想像させ、あらすじをつかむ。
- ⑤ お手紙をもらったがまくんの様子やがまくんの喜ぶ様子を見たかえるくん、四日間お手紙を運んだかたつむりくんの様子を想像させ、三人の気持ちを考えながらあらすじをつかむ。

ここでは、音読や鉛筆対談などを取り入れながら、場面の様子を想像させたり登場人物の気持ちを考えさせたりしてあらすじをとらえさせる。そして、それをお家の人へのお手紙として書きまとめさせるようにする。

読みのまとめ・読み方のまとめ

読みのまとめでは、これまで読み取ってきたかえるくんとがまくんの様子や気持ちをもとに、文章全体のあらすじを書きまとめる。このとき、最初に自分がまとめた予見と比べてみることで、自分の学びや読みの深まりに気づかせていきたい。また、題名にもどり、「お手紙」の果たした役目についてもとらえることができるようにする。

読み方のまとめでは、掲示物などを使いながら、人物の様子や気持ちを読み深めるために使った読み方をもう一度振り返り、次の学習で使うことができるようにする。

読書へ開く

最後に、アーノルド・ローベルの他の作品をもう一度紹介し、読書への意欲を高めるとともに、読書発表会の計画を立て、自分が選んだ作品の読書カードを書く活動を行う。

3 単元の目標

- 挿し絵とがまくんやかえるくんの言動とをつなぎ、がまくんやかえるくんの様子を想像したり、二人の気持ちや心のふれあいを考えたりしながら読むことができる。
- 「お手紙」を読んで自分なりの感想を持つとともに、かえるくんとがまくんのほかのお話に興味を持ち、それらのお話も楽しんで読んだり、読書紹介の手紙を書いたりすることができる。

4 学習計画 (計 15 時間 読む 13 時間・書く 2 時間)

段階 時	ねらい (◎) と主な学習活動	指導上の留意点 (※重点)	評価規準
読み の め あ て	<p>◎ 題名と冒頭の疑問をつないで、読書への関心を持ち、「お手紙」を読み通す読みのめあてを生み出すことができるようにする。</p> <p>(1) 題名「お手紙」について、疑問に思ったことや考えたことを話し合う。</p> <p>(2) 題名での話し合いと冒頭のがまくんのお手紙に対する気持ちをつないで、読みのめあてを生み出す。</p>	<p>○ かえるくんシリーズの本を提示し、「お手紙」がその中の一つのお話であることに気づかせることで、読書への関心をもたせる。</p> <p>○ お手紙についての自分の経験から「だれに、どんなお手紙をもらったりあげたりしたか。その時、どんな気持ちだったか。」想起させる。</p> <p>○ 「お」に着目することで、その意味を考えさせ、大切なことが書いてありそうであることをとらえさせる。</p> <p>○ お手紙を一度ももらったことがないことがとてもふしあわせだというのがまくんの気持ちと、自分の手紙に対する気持ちを比べ、がまくんへの疑問を持たせる。</p>	<p>・題名について、自分の経験とつないだり、「お」に着目したりして、考えている。(発言・ワークシート)</p> <p>・自分なりに読みのめあてを生み出している。(発言・ワークシート)</p>
<p>ようすを考えて読もう (単元名)</p> <p>「お手紙」(題名) アーノルド：ローベル 作・絵</p> <p>※自分の経験を想起させる。 ※スイミーと同様、文章だけでなく挿し絵も描いていることに気づかせる。</p> <p>だれに どんな手紙を どんな気持ちになったか</p> <p>※「お」に着目 → 大切なもの ?だれが だれに出すのかな ?どんな手紙かな</p> <p>かえるくん 「どうしたんだい。」 がまくん 「今、一日のうちの<u>かなしい時</u>なんだ。～とても<u>ふしあわせな気持ち</u>になるんだよ。だって、<u>ぼく、お手紙もらったことない</u>んだもの。」</p> <p>「いちどもかい。」 「ああ。いちども。」</p> <p>ふたりとも<u>かなしい気分</u>で、げんかんの前にこしをおろしていました。 ※なぜ、かえるくんまでかなしい気分になったのかな。</p> <p>読みのめあて (お手紙がもらえず)、かなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしているがまくんとかえるくんが、これからどうなるお話だろう。</p>			
音 読	<p>◎ 様々な方法で音読し、文章をスラスラ読むことができるようにする。</p> <p>(1) 言葉の意味を確認する。</p> <p>(2) 声の大きさや口の方に気をつけて音読する。</p>	<p>○ 全文を通して読む際には教師が補説しながら理解させていく。</p> <p>・ゆうびんうけ ・親愛なる</p> <p>・ばからしい ・親友</p> <p>○ まず、範読し、一文読みや交互読み、一斉読みなどを取り入れながら、文章をスラスラ読むことができるようにする。</p>	<p>・言葉の意味や漢字の読みを確かめて読んでいる。(観察)</p> <p>・声の大きさや口の形に気を付けて音読している。(観察)</p>
3 ・ 4	<p>◎ 読み通しの目をもとに全文を読み、がまくんとかえるくんのしたことを順序よくとらえ、予見をまとめることができるようにする。</p>	<p>○ 時・場所を表す言葉に気をつけて音読させる。</p>	<p>・かえるくんやがまくんのしたことが分かる文に線を</p>

予見	<p>15</p> <p>(1) 全文を読み通す。 (2) 挿し絵をもとに、お話の順序を確かめる。 (3) 予見を書きまとめる。</p>	<p>○ 8枚の挿し絵を順序よく並べ、お話の順序をとらえることができるようにする</p> <p>※ まず、2枚目と9枚目の挿し絵をもとにお話の最初と最後を押さえる。次に、その間を埋める挿し絵を順序よく並べ、それぞれの挿し絵が表す場面を短い言葉で表現させる。最後に、それをつないで予見として書きまとめさせる。</p>	<p>引いている。 (観察) ・自分で挿し絵にあった話の説明を書き込んでいる。 (ワークシート)</p>
<p>予見の方向</p> <p>(始めに) かえるくんは大急ぎで家に帰ってお手紙を書いた。(次に) かたつむりくんにたのんだ。(そして) かえるくんががまくんの家に戻ると、がまくんはお昼寝をしていた。(それから) かえるくんはかたつむりくんを待って、何度も窓からのぞいた。(最後に) かえるくんは、自分がお手紙を出したことをがまくんに言った。ふたりともとてもしあわせな気持ちになった。四日たって、がまくんはお手紙をもらってとてもよるこんだお話。</p>			
学習計画	<p>5 / 15</p> <p>◎ 予見を話し合う中で疑問点や不確かな点を明らかにし、読み確かめていく視点をもつことができるようにする。</p> <p>(1) 予見を発表し合う。</p> <p>(2) クラスで方向付けた予見をもとに、がまくん、かえるくんのしたことや言ったことのわけを話し合い、もっと詳しく知りたいことや疑問に思うことを整理し、学習計画を立てる。</p>	<p>○ 一人一人の予見の違いを明確にしなが ら、お話の筋として必要ながまくんとか えるくんの言動を整理していく。</p> <p>○ 自分の予見の足りなかった点に気づか せ、予見を見直させる。</p> <p>○ 場面ごとのかえるくん、がまくんのし たこと、二人の様子について想像を広げ ながら、予見を確かめていくことを確 認する。</p>	<p>・あらすじを もとに、それ ぞれの場面で くわしくした いことを考え ている。(ワ ークシート・ 発言)</p>
<p>読み確かめの視点</p> <p>○ どうしてかえるくんは、大急ぎで帰ったのかな。 どうしてかたつむりくんに渡したのかな。 ○ どうしてかえるくんは、何度も窓の外を見たのかな。 ○ どうしてかえるくんは、お手紙を出したことを言ったのかな。 どうしてがまくんは、「いいお手紙だ。」と言ったのかな。 ○ どうしてお手紙を待つがまくんとかえるくんは、とてもしあわせな気持ちなのかな。 4日間、どんなふうに使っていたのかな。 ○ どうしてがまくんは、お手紙のことを知っていたのに喜んだのかな。</p>			
		<p>○ 読み確かめの各時間の終末に、学習したことをおうちの人への「お手紙」に書きまとめるように計画する。</p>	
6 / 15	<p>◎ 大いそぎで家に帰ったかえるくんの様子を想像させるとともに、かえるくんのがまくんに対する気持ちを考えさせ、あらすじをつかむことができるようにする。</p> <p>(1) 2枚の挿し絵からかえるくんのしたことを話し合う。</p>	<p>○ 列指名で挿し絵からどんなお話か、かえるくんがしたことを発表させる。</p> <p>○ 挿し絵と叙述をつなぎ、本時で学習する場面を確認させる。</p>	

読
み
深
め
・
確
か

- (2) 本文を音読する。
 (3) かえるくんのしたことに線を引く。
 (4) 「大いそぎで家に帰りました。」から「家からとび出しました。」までのかえるくんの様子から、急いでいるかえるくんの気持ちを話し合う。
 (5) かたつむりくんに手紙をたのんだときの会話から、急いでいるかえるくんの気持ちを話し合う。
 (6) 今日のお話をお家の人に知らせるお手紙を書く。

- ※ 音読をさせることで、かえるくんのしたことがたたみかけるような書き方になっていることに着目させ、かえるくんが急いでいること様子を想像させる。
 ※ かえるくんが急いで手紙を書いたわけを考えさせ、かえるくんのがまくんを喜ばせたい気持ちを考えさせる。
 ※ 役割を決めて音読させることで、かえるくんのがまくんを喜ばせたい気持ちを考えさせる。
 ○ 板書をもとに、今日の場面のあらすじを書きまとめさせる。

- ・姿勢、読点、口形に気を付けて音読している。(観察)
 ・音読することで、かえるくんの様子や気持ちに気づいている。(発言・ワークシート)

「～家へ、帰らなくっちゃ、がまくん。しなくちゃいけないことが、あるんだ。」
 早く帰って、手紙を書かなくっちゃ。
 大いそぎで家へ帰りました。
 えんぴつと紙を見つけました。 ※言葉の順序を読む
 紙に何か書きました。
 紙をふうとうに入れました。 **とっってもいそいでいる**
 ふうとうにこう書きました。
 「がまがえるくんへ」
 かえるくんは、
 家から飛び出しました。⇔ 出ました。 ※似た言葉と比べて読む
 いそいで出して、早くがまくんをよろこばせたい。
 知り合いのかたつむりくんにたのみました。
 いっしょにまちたい。おどろかせたい。

7
/
15
(**本時**)

- ◎ まどからゆうびんうけを見るかえるくんの様子とまどからのぞくかえるくんの様子をがまくんの言動とつないで想像させるとともにかえるくんのがまくんへの気持ちを考えさせ、あらすじをつかむことができるようにする。
 (1) 3枚の挿し絵からかえるくんのしたことを話し合う。
 (2) 学習のめあてと、読み確かめていくことを確認する
 (3) 本文を音読する。
 (4) 「ゆうびんうけを見ました。」「まどからのぞきました。」「まどからのぞきました。」と、がまくんの様子をつないで、何回

- 挿し絵を使い、かえるくんは何をしているか説明させる。
 ○ あやふやな点やまだ詳しく読めていないことを明確にして、読む意欲につなげる。
 ○ 掲示物(学習計画)を使い、本時場面の答えを見つけることがめあてであることを確認し、学習の見通しを持たせる。
 ※「見ました。」と「のぞきました。」の様子のちがいを、がまくんの様子をつないで考えたり、動作化したりして比べさせる。

- ・姿勢、読点、口形に気を付けて音読している。(観察)
 ・言葉を比べたり、役割音読したりすることで、かえ

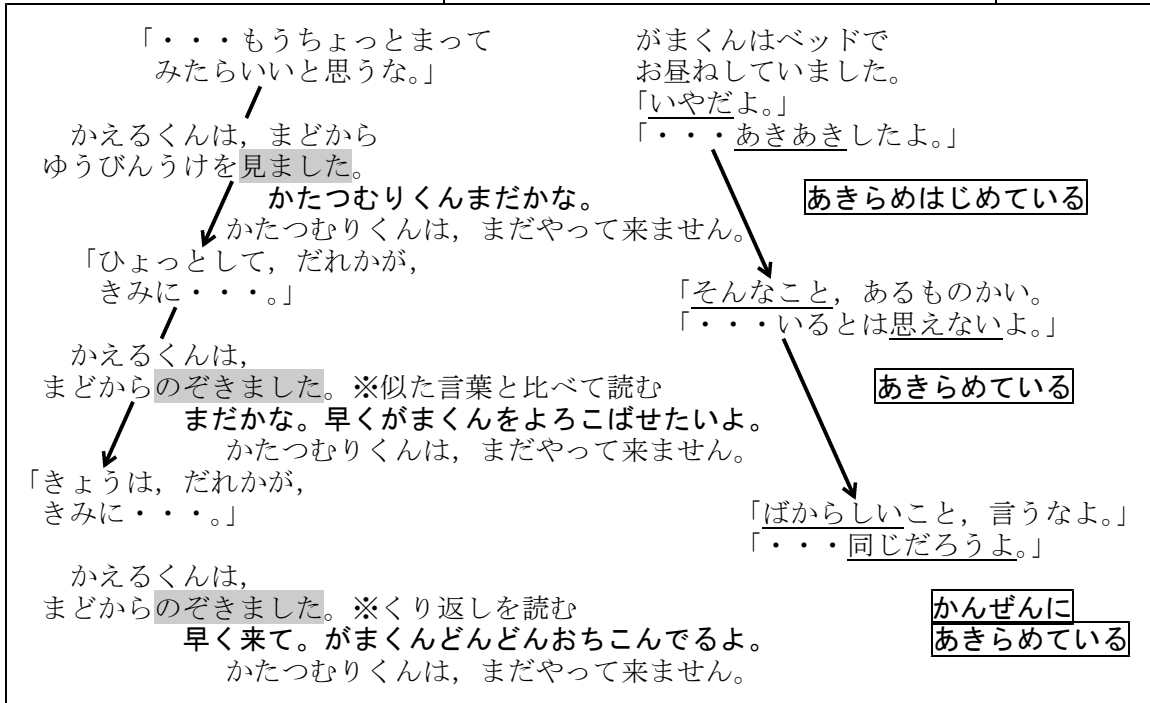
も外を見ているかえるくんの気持ちについて話し合う。

※ 2回のぞいていることに着目して会話を音読させ、かえるくんのお手紙を待っている気持ちやがまくんを早く喜ばせたい気持ちを読み取らせる。

るくんやがまくんの様子や気持ちに気づいている。(発言・ワークシート)

(5) 今日のお話をお家の方に知らせるお手紙を書く。

○ 板書をもとに、今日の場面のあらすじを書きまとめさせる。



読
み
深
め
・
確

8
/
15

◎ お手紙を出したことを言ってしまったかえるくんの気持ちを考えさせるとともに、かえるくんがお手紙を出してくれたことを知ったがまくんの様子を想像させ、がまくんの様子や気持ちを考えさせる。そして、あらすじをつかむことができるようにする。

(1) 2枚の挿し絵からかえるくんのしたことを話し合う。

(2) 本文を音読する。

(3) かえるくんとがまくんの会話を音読し、「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの様子や気持ちを話し合う。

(4) 今日のお話をお家の方に知らせるお手紙を書く。

○ 列指名で、挿し絵からどんなお話か、かえるくんがしたことを発表させる。

○ 挿し絵と叙述をつなぎ、本時で学習する場面を確認させる。

※ かえるくんからお手紙のことを聞いたがまくんの様子を「きみが。」の音読の仕方からとらえさせる。

※ 「とても」を外して読んだときとの違いをもとに、お手紙の何がいいのか考え、かえるくんが自分のことを親友と認めていることに対するがまくんの喜びの気持ちを読み取らせる。

○ 板書をもとに、今日の場面のあらすじを書きまとめさせる。

・姿勢、読点、口形に気を付けて音読している。(観察)
・音読したり言葉を外して読んだりすることで、かえるくんやがまくんの様子や気持ちに気づいている。(発言・ワークシート)

か
め

※前の場面とつないで読む 言わないとだめだ。 「でも、来やしないよ。」
 「きっと来るよ。」 「だって、ぼくが、きみに がまくんしんじて。」
 「お手紙出したんだもの。」
 ↓
 「ぼくは、こう書いたんだ。」
 『親愛なるがまがえるくん。ぼくは、
 きみがぼくの親友であることを
 うれしく思っています。きみの親友、
 かえる。』

「きみが。」 本当に
 ※会話文を読む
 だから、外を見てたんだ。
 「ああ。」 うれしいな。
 「とてもいいお手紙だ。」
 親友と言ってくれてうれしいな。

読
み
深
め
・
確
か
め

9 ◎ とともしあわせな気持ちでお手紙を待っている四日間のふたりの様子を想像させ、あらすじをつかむことができるようにする。

(1) 本文を音読する。

(2) 「ふたりとも、とともしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」から、なぜ二人とも幸せな気持ちになったのか話し合う。

(3) 挿し絵から、かえるくんとがまくんがすごした4日間を話し合う。

(4) かえるくんとがまくんに分かれて、鉛筆対談をする。

(5) 今日のお話をお家の方に知らせるお手紙を書く。

※ 「二人とも」という叙述に着目させ、なぜ、かえるくんも幸せな気持ちになったのか考えさせる。

※ 四日間のかえるくんとがまくんの様子を想像させ、かえるくんとがまくんの会話を考えさせながら、二人のとともしあわせな気持ちを読み取らせる。

※ 想像した四日間の二人の言動を書きまとめさせる。

○ 前の場面とつないで書いている児童の作品を紹介してよさを共通理解し、今日の場面のあらすじを書きまとめさせる。

・姿勢、読点、口形に気を付けて音読している。(観察)

・挿し絵と叙述をつないでかえるくんやがまくんの気持ちを想像し鉛筆対談をしている。(観察・ワークシート)

ふたりともかなしい気分で、げんかんの前にこしをおろしていました。

※前の場面とつないで読む
 ↓
 『ふたりともとともしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。かえるくんのような友だちがいてよかったな。がまくんがこんなによろこんでくれてうれしいな。長いことまっていた。』 ※お話のあいたところを読む
 「かえるくん、ぼくのためにはげましてくれてたのに気づかなくてごめんね。」
 「いいんだよ。がまくん。きみがそんなによろこんでくれて、うれしいよ。」

(挿し絵) ※挿し絵を読む (比べて)
 ↑ ↓
 (挿し絵) かたを組んでいる え顔 口が上がっている

10 ◎ お手紙をもらったがまくんの様子やがまくんの喜ぶ様子を見たかえるくん、四日間お手紙を運んだかたつむりくんの様子を想像させるとともに、そのときの三人の気持ちを考えさせ、あらすじをつかむことができるようにする。

(1) 本文を音読する。

・姿勢、読点、口形に気を付けて音読している。(観察)

<p>読 み 深 め ・ 確 か め</p>	<p>(2) 挿し絵から、かえるくんとがまくん、かたつむりくんの様子を想像させる。</p> <p>(3) 想像したことをお家の人に知らせるお手紙を書く。</p>	<p>※ 挿し絵と叙述をつなぎ、とても喜んで いるがまくんや、それを見て笑顔になっ ているのかえるくん、かたつむりくんの 様子や気持ちを想像させる。</p> <p>○ 板書をもとに、今日の場面のあらすじ を書きまとめさせる。</p>	<p>・挿し絵と叙 述をもとにか えるくんやが まくん、かた つむりくんの 気持ちを想像 し、書きまと めている。(発 言・ワークシ ート)</p>
<p>※前の場面とつないで読む 四日たって、かたつむりくんが、がまくんの家につきました。 しあわせな気持ちでまっていた。 そして、かえるくんからのお手紙を、がまくんにわたしました。(挿し絵) お手紙をもらって、がまくんは、とてもよろこびました。 ※挿し絵を読む ※挿し絵とつなぎながら、かえるくん、がまくん、かたつむりくんの 様子や気持ちを想像させる。 がまくん……………「かえるくん、かたつむりくん、すてきなお手紙、ありがとう。」 かえるくん……………「かたつむりくん、がんばってお手紙とどけてくれてありがとう。」 かたつむりくん…「おそくなってごめんね。はい。かえるくんからの手紙だよ。」</p>			
<p>読 み の ま と め ・ 読 み 方 の ま と め</p>	<p>11 1 かえるくん、がまくんがしたこと、言ったこと、そのときの様子や気持ちについて整理し、題名にもどって「お手紙」の果たした役目をとらえ、読みと読み方をまとめる。</p> <p>(1) 学習して読み確かめられたかえるくんやがまくんの様子や気持ちを予見に付け加えて、書きまとめる。</p> <p>(2) 学習で学んだ読み方を振り返り、そのよさに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉ははずして読む ・ 似た言葉と比べて読む ・ 前の場面とつないで読む ・ 挿し絵を読む など 	<p>○ 題名「お手紙」の「お」の意味について考えさせる。</p> <p>○ これまで読み取ってきたかえるくんとがまくんの様子や気持ちをもとに、文章全体のあらすじを書きまとめさせる。</p> <p>○ 読み確かめる中でとらえてきた読み方を整理し、意識化を図るようにする。</p>	<p>・読み確かめられたことを付け加えながら、あらすじを書きまとめている。(ワークシート)</p> <p>・読み方のよさに気づいている。(発言・ワークシート)</p>
<p>読 書</p>	<p>13 ◎ 学習したことを生かして、ローベルの他の作品を読み、読書交流会の計画を立て、読書に関心を持つことができるようにする。</p> <p>(1) 「かえるくんシリーズ」を読み、自分が一番好きなお話を選ぶ。</p> <p>(2) 自分が選んだお話のあらすじと選んだわけや感想をカードに書きまとめる。</p> <p>(3) 読書交流会で、自分が選んだお話の紹介文を読み合う。</p>	<p>○ ローベルの「かえるくんシリーズ」を準備し、人物のしたことに着目させながらあらすじをつかませ、お話の楽しさを味わうことができるようにする。</p> <p>○ 「お手紙」でのあらすじをとらえる学習を生かし、自分が選んだお話のあらすじを入れて紹介文を書かせる。</p> <p>○ 自分が選んだお話の紹介文を読み合う読書交流会をし、今後の読書活動につなぐ。</p>	<p>・進んで読書している。(観察・ワークシート)</p> <p>・学んだことを生かして読書紹介のカードを書いている。(カード)</p> <p>・カードをもとに自分が選んだお話を友達に紹介している。(観察・ワークシ</p>

7 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点（※重点）	評価
<p>〈ウォーミングアップ〉音読</p> <p>1. 学習のめあてと読み確かめていくことを確認する。</p> <p>— 学習のめあて _____</p> <p>かえるくんは、なぜ何どもまどの外を見たのか くわしく読もう。</p> <p>2. 本時場面を音読する。</p> <p>(1) かえるくんのしたことに線を引き、発表する。</p> <p>3. 何回も外（郵便受け）を見ているかえるくんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 「見ました」と「のぞきました」の違いに気づく。</p> <p>(2) かえるくんが「のぞいた」わけやそのときのかえるくんの気持ちについて話し合う。</p> <p>--- 予想される子どもの読み ---</p> <ul style="list-style-type: none"> かえるくんは、早くお手紙を渡してがまくんを元気にしたいから、かたつむりくんが来てないか窓からのぞいて見たんだと思います。 ひょっとしてだれかがお手紙くれるかも…と言っても、がまくん信じてくれないから、お手紙まだかなって待てなくなって体が前に出ているんだと思います。 <p>(3) もう一度「のぞいた」ときのかえるくんの気持ちを吹き出しに書き、話し合う。</p> <p>--- 予想される子どもの読み ---</p> <ul style="list-style-type: none"> ああ、どうしよう。がまくん、何だかどンドン機嫌が悪くなっていくよ。早くがまくんを元気にさせたいのに…。かたつむりくん、早くお手紙持って来て。 「ばからしいこといなよ。」って、がまくんさっきよりもっとお手紙のことをあきらめて、怒っているような感じがするから、早くお手紙渡さなきゃと思って、またのぞいたんだと思います。 <p>4. 本時の学習をまとめる。</p> <p>(1) 本時の学習を振り返り、本時場面を音読する。</p> <p>(2) 本時の場面で詳しく分かったことをお家の人へのお手紙に書く。</p>	<p>○ 3枚の挿し絵をもとに、かえるくんとがまくんがしたことを列指名で発表させる。</p> <p>○ 掲示物（学習計画）をもとに、予見の時の疑問を振り返り、本時学習の見通しを持たせる。</p> <p>○ かえるくんがどんなことをしたかに気をつけながら音読するよう、声をかける。</p> <p>※ 2枚の挿し絵をもとに、かえるくんの視線の方向やしぐさから、「見ました。」のかえるくんと「のぞきました。」のかえるくんの様子を動作化させながら想像させる。</p> <p>※ がまくんの言動とつなぎながら、窓から体を出して「のぞいた」かえるくんの気持ちを考えさせる。</p> <p>※ がまくんの言動とつなぎながら、前に「のぞいた」ときと同じか問かけ、再び「のぞいた」かえるくんの気持ちを考えさせる。</p> <p>※ 考えに深まりが見られない時は、役割音読を取り入れ、がまくんの言っている内容や口調から、お手紙をもらうことをどンドンあきらめているがまくんの様子に気づくことができるようにする。</p> <p>○ 板書を使って、本時の学習で確かめられたことを確認した後、本時場面を音読する。</p> <p>※ 「見ました。」と「のぞきました。」の違いや繰り返しによる読みの違いについても押さえていく。</p> <p>○ 「かえるくんが何どもまどの外を見たのはね、～」という書き出しを与え、かえるくんがどんな思いで何度も窓の外を見たのかを伝える手紙を書くようにする。</p>	<p>・姿勢、読点、口形に気をつけて大きな声で音読している。（観察）</p> <p>・「見た」ときと「のぞいた」ときのかえるくんの気持ちの違いを、がまくんの言動とつなぎながら考えている。（発言）</p> <p>・同じ「のぞいた」でも、かえるくんの気持ちに違いがあることに気づき、かえるくんになって吹き出しを書いている。（ワークシート・発言）</p> <p>・本時のかえるくんやがまくんの様子や気持ちを考えながら音読したり書きまとめたりしている。（観察・ワークシート）</p>